

「地デジ詐欺」に気をつけろ! / 「夏休みの自由研究」に役立つ大学イベント

サンデー毎日

8.17号
定価320円

大正11年3月31日第三種郵便物認可 2006年8月17日(木)発行 第2148号 21号 読者480万

勝手に裁判員! — 世の風潮に異議あり
「路チュー」は路上駐車より迷惑
コーヒーマーのサイズは大・中・小でよい

後期高齢者医療制度
夫婦、親子の「世帯分離」
で保険料が安くなる

「ラビア」ON and OFF
みちのくの「小京都」
角館へ 武家屋敷と
手仕事を訪ねて

北京五輪裏中継
テレビには絶対映らない



最新予測

1月解散」の大攻防戦が始まった!
自民は205議席
政権から転落する

森喜朗が漏らした
「麻生に10月禅譲」
という仰天情報

前代未聞! 「学長」不在が2年
名門「東京医大」に
入試疑惑」で大揺れ

8.15特別対談
保阪正康
佐野真一
「業が深いほくたちは
業の深い「人間」を書く」

がん治療のブレイクスルー

免疫細胞治療の最大の課題は、現在のところ、公的健康保険が適応されていないため治療費が大変高額になってしまっていることです。

グラソール奈良の免疫細胞治療

グラソール奈良はがんの早期発見・早期治療を目的に2001(平成13)年に設立、05年には免疫研究所を開院して、免疫細胞治療に取り組んでいます。

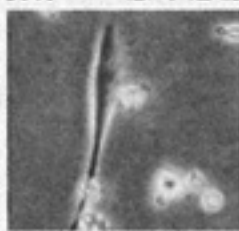
当施設で実施している免疫細胞治療は、「CD3・活性化リンパ球療法」と旺盛ながん細胞に対する殺細胞機能を有する「NK細胞療法」ならびに「γδ型T細胞」いわゆるNK細胞療法です。免疫能を測定して必要があれば、CD3活性化リンパ球療法とNK細胞療法を併せて行います。

CD3活性化リンパ球療法は、がん細胞を抑制し込むT細胞やNK細胞を大量に増やして、キラーT細胞とヘルパーT細胞をバランスの取れた状態で活性化させ、患者さんの体内に戻し、がん細胞と戦わせる療法です。患者さんの血液を約15

20ml採取し、比重遠心法によって単核球を分離して、洗浄後、培養に用います。この量の血液からおよそ100億個のリンパ球を得ることが出来ます。培養したリンパ球を高解像顕微鏡で観察し、殺細胞機能を評価し、その活性度を患者さんごとに詳しく調べます。これは、患者さんによって免疫細胞の活性化能力に違いがあり、患者さんに合わせて方法を調整し、最大の効果を引き出すことが大切であると考えられています。患者さんの症状を見きわめて、効力のある細胞を抽出し、うまく増殖させることが何よりも重要なカギと言えます。

グラソール奈良では6回を1クールとして、通常2週間おきに培養したリンパ球を点滴により静脈から投与していただきます。患者さんの症状によって毎週1回投与を行う場合もあります。

また近年になって研究が進んできたのが前述したNK細胞療法です。これは自然免疫系に属するリンパ球を増殖させて患者さんの体内に戻すもので、特にNK細胞は日々体



がん細胞を攻撃するNK細胞

内に発生している数千個のがん細胞を自分で探し出して排除する役割を果たしており、さまざまながん細胞に適応できると考えられています。

がん治療に対する効果はWHO、ないしRECIST基準に基づいて判定していますが、完全寛解、部分寛解、長期不変を合計すると50%を超える結果を得ています。

がん治療のブレイクスルーを目指して

免疫細胞治療の要は、患者さんのリンパ球の中の目的に応じた細胞を、いかに安全に効率よく培養することが出来るかということです。



高解像顕微鏡で拡大した免疫細胞の映像をパソコンに取り込み、細胞の活性などを患者ごとに詳しく調べ

細胞治療の研究を進めるとともに、グラソール奈良の患者さんの免疫細胞を実際の治療のために加工培養しています。

本年は、当研究所の設立3周年ということもあり、国内外から専門家の先生方(フランス、オランダ、アメリカ、日本の複数の大学教授など)をお招きし、8月2・3日の2日間に行われ、主に基礎研究に焦点を当てたシンポジウムを開催しました。

今後とも、グラソール奈良では最新の検査機器(MDC T、MRI、RI、MMG等)とITシステムでがんの診断能力の向上に努め、世界にがんのスタンダード治療と認められるような治療法、免疫細胞治療を研究開発しながら、がん治療に積極的に取り組んでいきたいと思っております。



乳がん検診ではMMG(デジタルマンモグラフィ)を導入、X線撮影により微小な病変を早期発見することが出来る

を目指すグランソール奈良



2001年度フードデザイン賞(建築・環境デザイン部門/建築デザイン)を受賞したグランソール奈良の外觀

がん治療の現状と課題

現在、日本人の死因の約六割は、三大生活習慣病と呼ばれる悪性新生物(がん、心疾患(心臓病)、脳血管疾患(脳卒中))で占められているという。これらの生活習慣病は、ある程度進行し(脳卒中)で占められているという。進めば手遅れになるケースもある。少子高齢化と自覚症状が現れ、進行が自己責任が問われる時代、健康な生活を送るためには、何よりも病気の早期発見・早期治療が大切だ。がんや生活習慣病の早期発見として、定期的な「人間ドック」を受診し、みずから自分の身体を守ることが非常に重要となる。そこで今回は、がん治療の現状と課題について、グラソール奈良の辻村貴弘院長に話を聞いた。

40歳、50歳を超えると「がん年齢」と言われています。がん細胞はすべての人の体内で毎日つくられ、免疫力との力バランスががん細胞に傾いた時、発症する。つまり誰もががんになる可能性がある。がんになる可能性はありますが、がんにならないための予防は、もちろん大切ですが、最も重要なのは、健康な時に「検診」を受け、がんの早期発見・早期治療にある。これこそががん克服への最短距離であると言えます。

がんは、さまざまな遺伝子の異常が積み立てられ、蓄積され

- 免疫細胞治療の特徴**
- 本質的に副作用がない治療
 - 外来治療が可能なお治療
 - 患者のQOL(生活の質)を高く維持できる治療
 - 他の治療を阻害しない治療
 - 患者様々へのオーダーメイド医療

ることで発生します。また、発がん誘発・促進因子には食品、たばこの煙、大気汚染、紫外線、放射線、ウイルスなど、私たちの生活環境の中に数え切れないほど存在し、複雑に関係し合っており影響を及ぼしています。

現在、がん治療には、手術による外科療法、抗がん剤による化学療法、放射線療法が主な治療法として行われています。もちろん、これらでがんのすべてを治せるとはいうわけではなく、進行したがんの多くは、これらの治療法に抵抗性です。一つ一つの治療法の特徴を生かして、これらの治療法を選択し、組み合わせることでいくことが必要になります。

免疫細胞治療(免疫細胞療法)とは

前述した外科療法、化学療法、放射線療法といった治療法の限界を補填する治療法として、現在、注目されているのが免疫細胞治療です。免疫は自然に身体に備わっている自己治癒力。発生したがん細胞を抑え込み、がんという病気にまで進展するのを防ぐ身体の抵抗力であり、その抵抗力の中心になっていくのが免疫システムの力です。身体に侵入してきた異物に対する防御を行っているのはリンパ球や食細胞を有する多型核白血球、またマクロファージなどの細胞であり、体の中に生じた異常な細胞(ウイルスに感染した細胞やがん細胞)を排除しようとする役割を分担しているのが、リンパ球の中のT細胞やNK細胞です。

免疫細胞治療とは、免疫を担う本人の細胞を体外で大量に数を増やしたり、機能を増強、あるいは付加した上で再び体内に戻して免疫力を高めたり、がんに対して特異的殺細胞機能を持った細胞を増やして行われる治療で、患者さん本人の細胞を使うことや、体内に薬剤を入れられないことなどの理由により、副作用のほとんどない先進的ながん治療法です。

免疫機能を高める療法には、健康食品による免疫療法、精神

より健康に、そして安心の未来を…
癒しとくつろぎの空間で、先鋭の医療技術による検診を

「人間ドック・健診施設機能評価」認定施設
「健康保険組合連合会」指定施設

GRANDSOUL NARA
グランソール奈良

〒633-2221 奈良県宇陀市菟田野松井8-1 TEL:0745-84-9333 FAX:0745-84-9355 http://www.grandsoul.co.jp